

# News IR

IR (Institutional Research/インスティテューショナル・リサーチ) は、大学組織において何らかの決定を行う際に、それをサポートするための情報収集と分析を意味します。

二松学舎大学では、大学の機関活動に関するデータ収集・分析を行い、大学がどのような課題を抱えているのか、その課題はどのような要因と関連しているのか、今後どのような意思決定を取り得るのか等を客観的に把握し、政策形成・意思決定を支援するための活動を行っています。

2019年度 第2号 (NO.8)

## Contents

- ◆PROGの実施について . . . . . 1
- ◆PROG・『学生の実態・満足度調査』のクロス分析について . . . . . 2
- ◆二松学舎憲章 . . . . . 4

### ◆PROGの実施について

本学では、2017年度から、1・3年次生を対象として、ジェネリックスキル測定ツールとして、PROGを学生の任意受験（無料）にて実施しています。

PROGは、大卒者として社会で求められる汎用的な能力・態度・志向（以下、ジェネリックスキル）の育成を目的に、「リテラシー」と、「コンピテンシー」の2面から測定するペーパーテストです。

リテラシーとは、知識を活用して実践的な問題を解決する力を意味します。PROGでは、設定された状況や文脈の中で、文章や資料を読解したり計算したりするように工夫されており、自らの経験を活かした解釈や判断が問われる問題となっています。

コンピテンシーとは、自分を取り巻く環境に働きかけ、実践的に対処する力です。PROGでは、実社会で活躍する若手リーダー層の行動特性のデータと比較することで、実社会で通用する「周囲に働きかけ対処する力」を計測するよう設計されています。

学生の手元に届くPROGの個人結果報告書は、数値結果とイメージグラフィックで可視化され、学生が読みやすいよう、かつ自己理解を深められるように記載されています。

また、各学年・学部別にPROGの個人結果報告書を基にした解説会を開催し、1年次生においては、自分の特性を知った上でこれからの大学生活4年間をどのように過ごすのか、3年次生においては、これから就職活動を迎えるにあたり、大学での2年間の生活を振り返り、自己の長所や成長を考える機会を提供しています。

今年度は、1,071名（1年次生：745名、3年次生：326名）がPROGを受験しました。今後も、学生のみなさんが自身の成長を客観的に把握するため、また、大学の客観的な教育・学修成果の検証材料として、PROGを実施していきます。

なお、PROGの個人結果（要約版）は、各学生のLive Campusにおいて閲覧が可能となっています（トップメニュー⇒eポートフォリオ⇒学修成果管理・参照情報：自分史）。

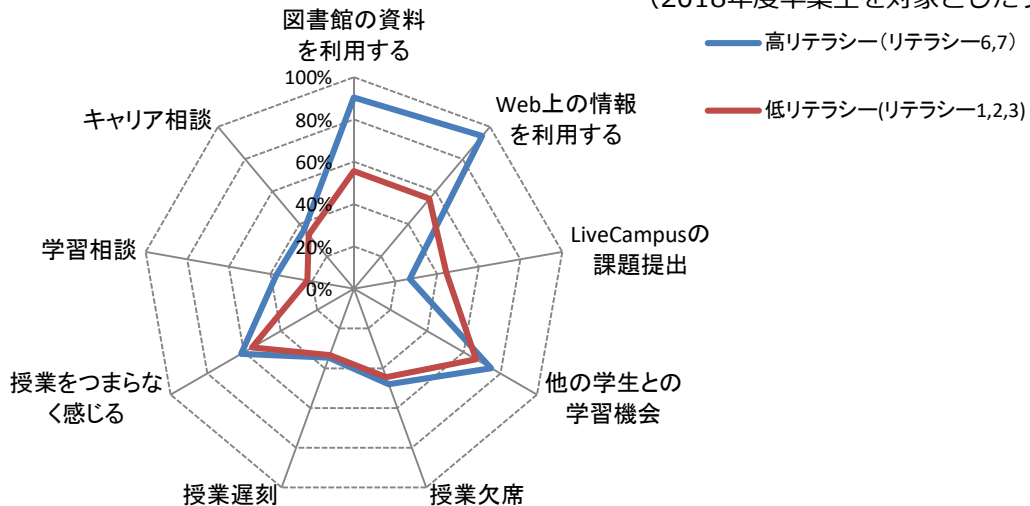
## ◆PROG・『学生の実態・満足度調査』クロス分析について

各学生が直近時点で回答したPROGテストの内容と、『学生の実態・満足度調査』の結果を照らし合わせ、グルーピングを行うことによって、リテラシーやコンピテンシーと学生の行動特性との関係性を分析しています。

以下はリテラシーやコンピテンシーの高い学生には、どのような学習傾向が見られるのか、クロス分析し、大学の教育成果や、本学の抱える課題等の検証材料として、各種委員会等で報告・検討したものです。

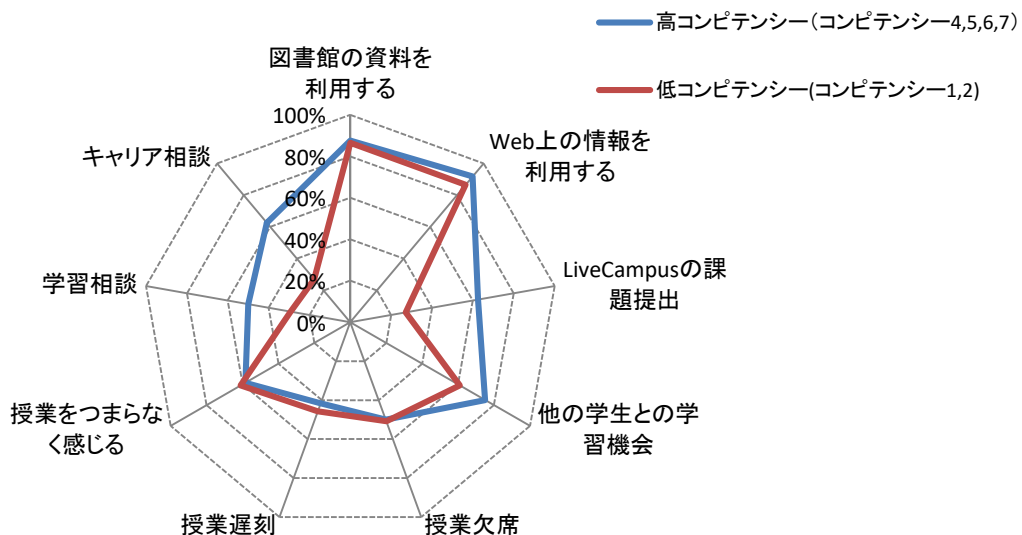
▼大学の授業や授業以外の学習に関して、次のことがらをどの程度しましたか。

(2018年度卒業生を対象としたクロス分析)



(4段階評価のうち、『4.頻繁にあった』・『3.時々あった』と回答した割合)

➤ リテラシーの高い学生は、リテラシーの低い学生と比較して、頻繁に図書館の資料を利用したり、Web上の情報を利用して自主的に学習する習慣が身につけていることが窺えます。

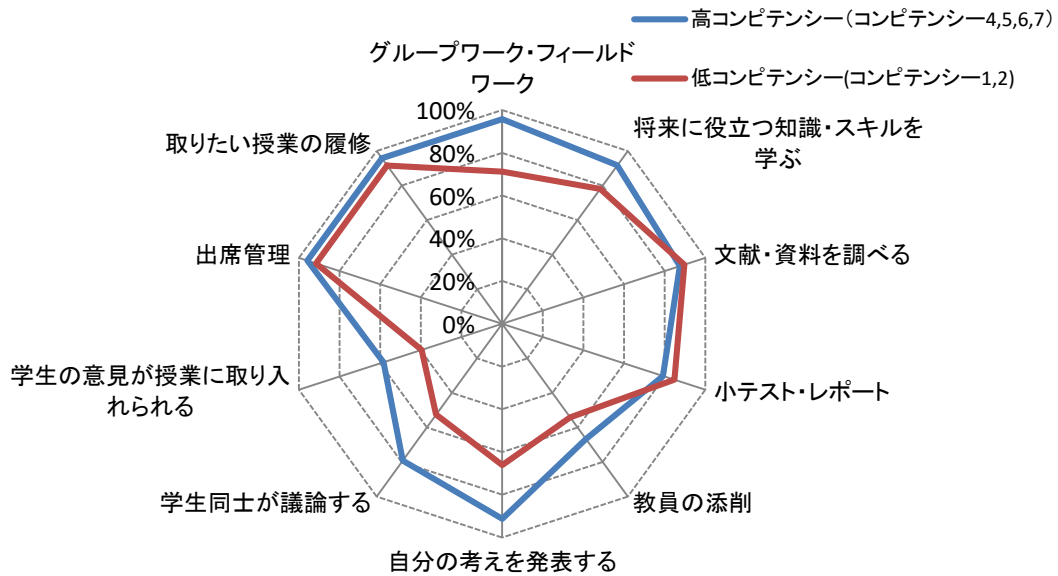


(4段階評価のうち、『4.頻繁にあった』・『3.時々あった』と回答した割合)

➤ コンピテンシーの高い学生は、自分から積極的に『他の学生との学習機会』を持ったり、教職員に『学習相談』や、『キャリア相談』をする機会が多く、他者と共働・関わりを持つことに積極的であることが窺えます。

▼大学の授業や授業以外の学習に関して、次のことがらをどの程度しましたか。

(2018年度卒業生を対象としたクロス分析)

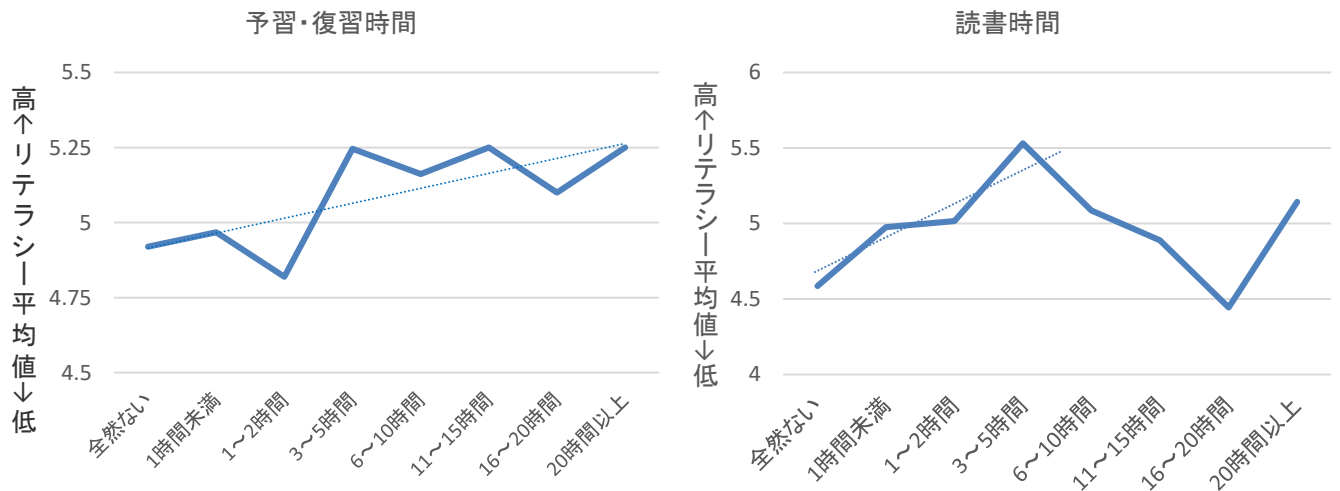


(4段階評価のうち、『4.頻繁にあった』・『3.時々あった』と回答した割合)

- ▶ コンピテンシーの高い学生は、『グループワーク・フィールドワーク』、『自分の考えを発表する』、『学生同士が議論する』機会が多いことが窺えます。

▼この1年間で、次の活動に1週間あたりどの程度の時間を費やしましたか。

(2018・2019年度卒業生を対象としたクロス分析)

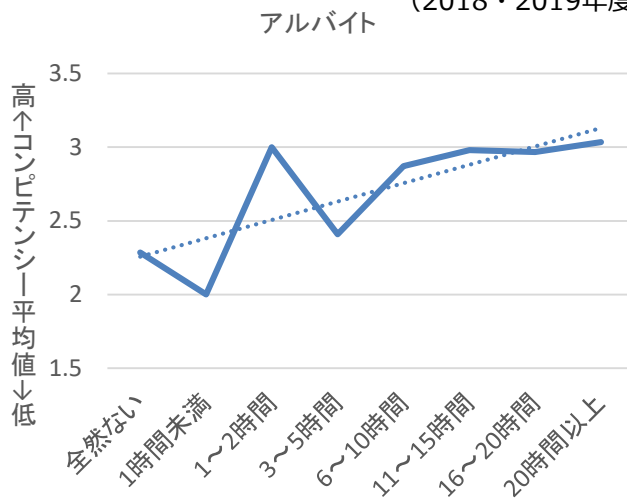


(『1週間あたりどの程度の時間を費やしたか』の回答に対して、リテラシーの平均値をプロットしたグラフ)

- ▶ 予習・復習時間が長くなるほど、リテラシーの平均値は上昇します。予習・復習時間と、リテラシーの平均値に関しては、相関があると考えられます。
- ▶ 一方で、読書時間とリテラシー平均値については、ある程度読書時間までは相関が見られるものの、読書時間が長いほど、リテラシーの平均値が上昇する、という傾向は見られませんでした。

▼この1年間で、次の活動に1週間あたりどの程度の時間を費やしましたか。

(2018・2019年度卒業生を対象としたクロス分析)



(『1週間あたりどの程度の時間を費やしたか』の回答に対して、コンピテンシーの平均値をプロットしたグラフ)

- ▶ アルバイトに従事する時間が長くなるほど、コンピテンシーの平均値は上昇しています。アルバイト時間と、コンピテンシーの平均値に関しては、相関があると考えられます。アルバイトを通じて、他者とコミュニケーションを取る機会が多いと、コンピテンシーが上昇する可能性があると考えられます。

リテラシーやコンピテンシーの高い学生は、積極的に大学の授業以外での予習・復習をしたり、他の学生との学習機会やグループワーク等に参加している姿が浮き彫りになりました。アルバイトについても、他者とコミュニケーションを取る機会として、コンピテンシーを伸ばす要因となる可能性が考えられます。

## 【二松学舎憲章】

### <建学の精神の発揚>

- ・教職員は、建学の精神「東洋の精神による人格の陶冶」、「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成ス」の発揚に努めます。

### <教育・研究の目標達成>

- ・人材育成のため、自らその体現者となるべく、自己研鑽に努めます。
- ・法令及び学則を順守し、道徳心と倫理観を持ち、職務に当たります。
- ・現状を把握し、自ら課題を見つけ、教育・研究の質の向上に努めます。

### <学生生徒支援>

- ・教職員一人一人が、学生生徒の人格と人権を尊重します。
- ・教育・研究の充実に常に努め、教育・研究環境の整備を行い、学生生徒の満足度向上を目指します。

### <社会貢献>

- ・教育・研究活動を通じて、地域社会への貢献に努めます。
- ・社会情勢に常に目を向け、国際社会への貢献と世界平和に寄与します。

【発行主体】

二松学舎大学

大学改革推進部 I R 推進室

〒102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

TEL (03)3261-1285

FAX (03)3261-7413

[E-mail] gakumu@nishogakusha-u.ac.jp